

三次市酪農振興会

四月六日 三次市尾関山公園周辺

三次さくら祭二万人 牛乳愛飲をPR



三次市酪農振興会(会長橋本洋資)とミルクファームHARUは、三次市三次町周辺で開催された「第二十九回三次さくら祭」に出店した。

朝から雨が降り、強風でテントが揺れ、時にはヒヨウが降る等不安定な天候で、気温の低い一日であったが、午後からは晴れ間も見え、来場者は全体でおよそ二万人と昨年を上回る数であった。同振興会からは橋本会長をはじめ五名が参加ブースに立って乳製品の販売やホットミルクの試飲、アンケートの実施等にあたり、中でも橋本会長手作りの乳搾り体験コーナーは、子どもたちに大人気であった。

今年はステージでのPR機会があり、ミルクファームHARUの盛崎伸治店長が店舗PRを行い、橋本会長からは三次市の酪農情勢に加え、「牛乳を飲みましょう!」の幟を片手に持ち、愛飲を来場者へ呼びかけられた。

広酪西部ミルク会

四月二日 西部事業所

更に結束を 新会長に西原美和さん



広酪西部ミルク会(会長砂子靖子)は総会を開催し、会員他十五名が参加した。上程された平成二十五年度事業報告・収支決算報告、並びに平成二十六年度事業計画案・収支予算案は何れも承認された。役員選任議案では会長に西原美和さん、副会長に山田愛子さん、福原美江さん、監査に福島孝子さんが承認された。

総会終了後、岩竹重城組合長(広酪)は「最近の酪農情勢」についての講演を行い、飼料高騰や前年対比を下回る生乳生産量など、酪農情勢は益々厳しい状況であることを踏まえ、乳価値上交渉に臨む為の基礎データとして、組合員の生産費調査表を提出して欲しいと訴え、生産コストを抑える為にも安価で良質な広酪のTMRを使って頂きたいと呼びかけた。そして、乳質改善に関しては牛の状態など細やかな観察が出来る女性が適していると会員を前に力強く講演された。

また、市川貴英所長(全酪連三次駐在員事務所)からは、「哺育育成管理」と題して講演が行われ、出生直後や日々の管理は重要であると述べられた。

講演会後の懇親会では、食事をしながら和気あいあいと話が飛び交い、会員同士の交流を深めた。

神石地域酪農女性部

三月七日 峠茶屋

新部長に藤井登喜子さん決定

神石地域酪農女性部(部長山本礼子)は、二年毎に行う総会を峠茶屋で開催した。

会計担当の河上ひろみさんより、平成二十四年度と二十五年度の会計報告が行われた。神石地域も現在三戸になり行事の開催が難しい中、元酪農仲間を誘って時々、食事を開き、情報交換の場にしようとの提案に全員が了承された。また、新部長には藤井登喜子さんが選任された。

甲奴郡酪農女性部

四月九日 東部事業所

事故や病気に注意! 元気に酪農を!

新部長に松本美喜枝さん

甲奴郡酪農女性部(部長溝辺博子)は、平成二十五年度総会を開催し、十三名が出席した。冒頭で溝辺部長は「最近年を感じる。皆さん事故や病気に注意し元気に酪農を続けて行きましょう」と部員へ呼びかけ、議題に入った。

事業計画では東部管内女性部に呼びかけ、松江道を利用して七月に出雲大社への旅行を決定した。役員改選で、新部長に松本美喜枝さん、副部長に伊達ともえさんが選任された。

総会後は新部長の就任挨拶で「無理のない行事で、より参加しやすい取り組みをしていきますので協力を宜しくお願いします」と述べられ、食事をしながら和やかな時間を過ごした。

自宅へのお土産は、花いっぱい運動として全戸へ「アメリカンハナミズキ」と「ミニばら」、そして乳製品消費拡大に広島産牛乳とチーズの配布を行い、今年度事業への取り組みに意欲的な総会となった。

北広島町酪農団体連絡協議会

四月十五日 西部事業所

桜の下で「乳質改善」を誓う

北広島町酪農団体連絡協議会(会長宮村道徳)は、西部事業所前に咲く満開の桜の下に、会員・家族、関係団体から参加者七十名が集い交流会を行った。

宮村道徳会長は、「組合員は飼料価格も高騰し、消費税率の引き上げで厳しい状況にある。また、新潟県では学校給食から牛乳が消え、大変遺憾なことになっている。厳しい状況ではあるが団結して頑張ろう」と挨拶をされた。



また、来賓の北広島町長箕野博司氏は、日頃の町政への感謝と、今後の酪農事業を頑張るべくよう激励し、町としても応援したいと挨拶された。

交流会は、農業共済組合関係者の歓送迎も兼ねられており、今年度から県内一円となった広島県農業共済組合の北広島支所メンバーが紹介された。

参加者は日頃の作業や乳質改善に向けた意欲的な会話も弾み、和気藹々のもとに一日を過ごした。

高宮ミルクボーイ

四月十六日 高宮ミルクボーイ

桜と共にみんなで頑張ろう



あきたかた酪農振興会(会長泉秀利)は花見会を開催し、お花見日和に誘われて酪農家、市議会議員、酪農関係機関等から総勢三十名の参加があった。

泉会長は「今年植樹した桜の苗ももう芽吹き、一輪咲いた桜木もありました。五年後、十年後が楽しみです。それまで、私たちも厳しい酪農情勢ではありますが希望を持って会員一同頑張るつもりです。飼料イネの方向性も前向きに検討していきます」と挨拶し、見玉県議会議員からは「情報交換を行い、要望があれば行政へ投げかけて下さい。一緒に頑張ります」とエールを受けた。

また、鈴木道弘代表理事専務(広酪)は「新生いわTMRセンサーが完成したことで、酪農家の経営安定と生乳生産コスト抑制に取り組み、酪

甲奴郡酪農組合

四月十七日 管内組合員の牧場

バルク清掃巡回

甲奴郡酪農組合(組合長伊達薫)の役員六名は、本格的な夏場を控えて、バルククーラー冷却能力の保持、乳質向上を目的に管内バルククーラーの個別巡回清掃にあたった。

該当組合員全戸を巡回し、バルククーラーの冷凍機の掃除を行い、乳質改善事業の一環としてPLテスターを配布した。

巡回終了後は東部事業所において状況報告と役員会を開き、バルク清掃がこれからの季節に役立つことを信じ、清掃巡回を終えた。



農家の皆さんに一円でも安い飼料を提供したい。そのためにも多くの皆さんのご利用を期待しています」と述べ、花見会では各関係機関の情報交換等を行いながら、和やかな一時を過ごした。

西部楽酪会

四月十八日 西部事業所

牧場視察の刺激を受け 経営意欲を増す



西部楽酪会(会長砂子拓也)は平成二十五年年度総会・花見を開催し、会員他九名が出席した。議案には①平成二十五年年度事業報告・収支決算、②平成二十六年年度事業計画・収支予算(案)、③会費の請求を上げし、原案どおり承認された。

総会終了後は花見会を開催し、四月十七日に行われた和田牧場の視察研修の報告会を西部事業所の加藤祐一技師が行い、意識高揚と情報共有を図った。

参加会員は和氣藹々に語り合い、日頃のストレス発散やこれからの酪農について熱く語り盛り上がった会となった。

西部楽酪会

四月十七日 和田牧場

目標を高く有言実行！ 和田氏の経営スタイルに学ぶ！



西部楽酪会(会長砂子拓也)は、経営手法のノウハウを学ぶため、和田牧場(庄原市東城町)を視察した。フリーストール牛舎の和田牧場は、年間一万一千トンを超える生乳生産量で、飼料は自給粗飼料を基本とした自家製TMRを給与。西部楽酪会の会員の多くも自給飼料を作付けしていることから、給与方法に興味を示されていた。

給与飼料の品質は年間を通じて同じ物を給与できるように取り組みされており、フリーストール牛舎での個体管理も一頭一頭に目が行き届くなど、充実した経営スタイルを自らの牧場にも活かそうとその手法を学び、中身の濃い研修となった。

また、和田慎吾氏は牧場概要を説明する中で、「目標を高く持ち、有言実行する。厳しい酪農情勢の中で志を高く持つのは難しいが、口に出す事は必要である」と、これからの酪農を担う若い酪農経営者にエールを贈った。

上下町酪農組合

四月二十四日 東部事業所

持続可能な酪農を目指して 飼養管理研修会に積極的参加を

上下町酪農組合(組合長角康晴)は平成二十五年年度総会を開催し、組合員や関係機関等から十三名が出席した。

角組合長は事業概要を説明する際、「三重苦のような今の状況であるが、各関係機関との連携強化を図り互いに協力して持続可能な酪農を目指したい」と組合員へ呼びかけた。

協議事項では第一号議案から四号議案まで全て承認され、今年度も優秀精液配布事業を中心に町内の牛群向上と乳質改善に努力し、飼養管理などの研修会も積極的に参加していく方針を固めた。また、府中市からは池田牧場が取り組まれる食育活動や、広酪製造のTMRに関心が寄せられていた。

総会後は広島県東部畜産事務所より、府中市の耕畜連携に対するアンケート調査結果、飼料イネの利用状況や堆肥センターの課題等が報告された。

